双葉通信【第 125 回】“ふくしまの切捨ては許さない”　　20210601

上　田　　勉

**浪江町　学校解体本格化　延期求める声無視　町教育委員会からの事前説明なく**

「東京電力福島第一原発事故で大きな被害を受けた、福島県浪江町の町立小中学校の解体工事が、本格化しています。「工事を延期して学校にお別れする場を設けて」という多くの町民の声は、無視されたままです。（徳永慎二）

解体されるのは、浪江・幾世橋（きよはし）・大堀・苅野の 4 小学校と浪江中学校。東京電力の原発事故で、多くの町民が町外への避難を余儀なくされました。児童・生徒が減り、休校に追い込まれました。昨年 3 月、街は環境省に解体を申請。同省は、同年 10 月、安藤ハザマと解体工事契約をしました。浪江中と幾世橋小は 4 月から、苅野・大堀・浪江の各小学校は 5 月から、それぞれ本格的な解体工事が始まっています。環境省福島地方環境事務所環境再生課は「7 月までに解体を終わらせたい」といいます。

「母校の浪江小中学校の解体工事のことは安藤ハザマのチラシで知りました。その前に町教育委員会からの説明はありませんでした。信頼関係を築けなくて悲しい」と話す東京都世田谷区在住の歌人、三原由起子さん（42）は、1991 年卒業です。「足場が組まれたら校舎を見られなくなる」と、せかされるように 4 月 18 日、日帰りで母校を訪れました。オリンピック聖火リレーの町内のスタート地点。校門の松の木はきれいに整えられていました。「解体前の死に化粧か」と思いました。曾祖父母の代から 3 代続いた実家の自転車店と玩具店は廃業を余儀なくされ、家そのものも解体されました。父母、祖母は千葉県に移住しました。

**請願署名 4,000 人　町議会は否決　「歴史資料館つくれれば」**

静岡県富士市の堀川文夫さん（67）は、10 年前の 2011 年 5 月 8 日に浪江町から同市に避難してきました。21,000 人いた町民の 9 割が堀川さん同様、帰還できないままです。「学校解体は、性急すぎます」と堀川さん。「学校は、地域の文化・歴史の中心です。私たちの心情と深く結びついています。町外の 9 割の町民はもう関係ないということでしょうか」。浪江中学校は 1970 年の創立。幾世橋・苅野・大堀・浪江の各小学校は 1873（明治 6 年）の創立。約 150 年の歴史があります。三原さん、堀川さんを含む小中学校の卒業生らは、解体延期を求める署名を呼びかけました。集まった署名は 1 カ月余で 4,000 人近く。昨年 11 月、町議会と町に請願しましたが、町議会はこの請願を否決しました。

署名呼びかけ人の代表を務めた門馬昌子さん（78）は東京都北区在住。「コロナ禍もあって学校の見学会も閉校式もできないまま、今に至っている」といいます。とはいえ「これで終わりというわけにはいかない」浪江町の自宅 1 室を「原発被災記念館」にすることを考えています。「浪江町には自由民権運動などすばらしい歴史もあるんです。町の歴史を残そうと志を同じくする人も出て来ています。今は個人の資料館がバラバラにあるのを 1 つにした歴史資料館をつくれればいい」と話します。（「しんぶん赤旗」）

【浪江町の小中学校の推移】
【小学校】2010 年度（震災前）6 校（生徒 1,162 人）⇒2021 年度（震災後）1 校（生徒 22 人）
【中学校】2010 年度（震災前）3 校（生徒　 611 人）⇒2021 年度（震災後）1 校（生徒 9 人）

【聖火リレーの時は工事中の看板が外された一解体工事中の浪江小学校（浪江町）】

【解体工事中の苅野小学校（浪江町）】